

## お茶の水女子大学での交換留学

カレル大学  
シュプリニャロヴァー・エヴァ

交換留学生としてお茶の水女子大学の授業を受講し始めた時から 1 学期が経ちました。新型コロナウイルス感染の影響で日本の入国禁止の継続で、この 1 学期間に遠隔授業に通いました。これから自分の交換留学の生活について紹介したいと思います。

正直に、外国の大学に留学するのは、1 年くらい前に考えられないことでした。交換留学に選ばれた私は、日本に行くことを楽しみにしていましたが、授業がオンラインになってしまったから、心配が出てきました。一番気になったことは、チェコと日本の時差です。時差はかなり大きいので、朝早く起きて、夜も早く寝なければなりません。最初の頃に、辛かったです。新しい日常的なルーチンに次第に慣れてきました。

オンラインの科目は少ないので、元々受けたかった文学に関する科目の代わりに、日本事情に関する科目を選びました。自分の日本語能力を上達させるため、日本語の熟達を中心とする科目を選びました。その授業の中で印象に残ったのは、「日本語演習 3B」と「日本事情演習 2B」という授業です。「日本語演習 3B」の授業では、興味のある分野の専門家にインタビューをしてから、グループでパンフレットを作成したりしました。私は図書館司書の仕事内容に聞くため、お茶の水女子大学附属図書館の利用支援担当の方にインタビューしました。質問の作ることからパンフレットのテキストを印刷されることにかけて学んだことは多いです。さらに、「日本語事情演習 2B」の授業では、東京について多くの興味深いことを勉強ただけでなく、お茶の水女子大学附属小学校の 4 年生と 5 年生と一緒にプロジェクトにも参加しました。

チェコでは女子大学がありませんので、生まれて初めて女子大学に通って、良い経験になったと思います。チェコの大学に比べて、お茶大では授業の形態が違うという点にも気づきました。授業の中で学生を中心とする積極的なアプローチで授業が行われていて、良かったと思います。オンライン授業にも関わらず、お茶大の学



生さんと交流会やインタビューをしたおかげで、ネイティブに何回も話す機会があって、嬉しいです。学期中に課題が多かったのですが、非常に楽しかったです。時差があっても、来日できない状況にしても、この1学期間はそれだけの価値があったと思います。

今学期中お世話になった方々が多くて、感謝の気持ちを伝えたいと思います。最初に、交換留学生指導室の萩原先生と松田先生に、交換留学に関する重要なことを教えてくれたり、問題があった時に手伝ってくれたりしていただき、誠にありがとうございます。次に、指導教員の埋忠先生に毎月振り返りシートを確認したり、対面で出会いきなくても勉強会を行ったりしていただき感謝しています。最後に、受講していた授業の担当の先生にも学生さんたちにもお礼を申し上げたいと思います。